

Kandai Style

2016.7 Vol.452
関西大学通信



関大生と
日本の祭り

130
KANSAI
UNIVERSITY

見るもよし! 参加するもよし!

関大生と日本の祭り

夏から秋にかけては祭りの季節。そこで今号では、関西を中心に北は福島県から南は沖縄県まで、地元の祭りや、地域貢献活動として祭りに参加したことがある関大生を特集。祭り好きの関大生が各地域の祭りを紹介します。

みんなで力を合わせ今しかできない経験

堺市にある住吉大社宿院頓宮から大和川までみこしを担ぎます。その距離は往復約7km。堺市の「ふとん太鼓」を担ぐ地域の方のご指導のもと、私が所属する野球部をはじめ、体育会に所属する人間健康学部生が参加します。みこしが重たくて、肩の皮がめくれるほどですが、みこしをみんなで必死に担ぐことに達成感があり、普段は接点の少ない人となりがができるのが楽しいです。学生時代にしか経験できないことをさせてもらっています。今年のみこしは、去年のものより重いそうなので、不安な気持ちもありますが、それも楽しみたいです。

人間健康学部 3年次生
久米 健夫さん(大阪府出身)

住吉祭 大阪府

大阪三大夏祭りの一つである住吉祭の始まりは奈良時代にさかのぼります。大阪中をおほらいする「お清め」の意味合いがある住吉祭は7月の海の日に始まり、7月30日に行われる「宵宮祭」、7月31日に行われる「夏越祓神事・例大祭」、8月1日に住吉大神の御神霊を移したみこしが、堺の宿院頓宮まで渡る「神輿渡御」が行われます。



人とのつながりを実感し、伝統を継承できるもの

幼い頃に習っていた空手道場での参加がきっかけで、小学生のころから高校生のときまで参加していました。子どもから大人まで10人前後の団体で出場し、演武を行いながら街中を練り歩きます。もともと目立つことが好きなので、祭りに参加できて楽しかったです。参加するたびに、地元のことを好きになり、参加するみんなが自分をさらけ出せる場所だなど感じました。沖縄の人は特に地元への思いが強いと思いますし、祭りを通して人とのつながりや、大切さを感じ、伝統を継承することができると思います。



商学部 4年次生
黒川 ウェリントン 力さん(沖縄県出身)

愛宕祭 兵庫県

兵庫県丹波市氷上町で江戸時代中期から続く、火難除けと五穀豊穡を祈願する祭りで、毎年8月23日、24日の両日行われます。特徴は300年の伝統を持つ「造り物」。家の土間やガレージを使って展示する飾り物で、同一種類の材料だけで作るなどのルールがあります。山中さんから建築環境デザイン研究室の学生やOBらは、この祭りと地域を盛り上げるために2010年から始めたプロジェクト「ATACOM(あたこむ)」に参加しています。



300年の伝統に学生らも参加

参加している大学院生や学生の大半は入学後、夏休みに現地で1週間の合宿をして地元の人たちと交流したことがきっかけで、このプロジェクトに参加し、主に「造り物」に取り組んでいます。巨大な造り物を1千本の風車でこしらえたり、2千本のうちわで作ったり、毎年工夫を凝らしています。地元のものづくりや暮らしに直接触れ、研究室では得られないものが吸収できます。



理工学研究科M2
山中 晃さん
(大阪府出身)

理工学研究科M1
阪井 勇樹さん
(奈良県出身)

地域社会と共に作る「吹田まつり」

“好いたおどり”と江坂会場での前夜祭・本祭りの企画や運営を行っています。好いたおどりは、今年で16回目ですが、1回目から関大生が実行委員会の中心となり、企画しています。江坂会場では、企画を自治体の方に提案し、関係各所とのやりとりから当日の運営まで行います。一昨年は吹田市イメージキャラクター「すいたん」のヒーローショーを、吹田市を拠点に活動するチームと共に開催しました。祭りを開催するまでの自治体とのやりとりや、調整は大変でしたが、それを経験できたことは貴重だと感じています。本祭りを、みんなの笑顔で終わった瞬間は、すがすがしい気持ちでいっぱいでした。



法学部 3年次生
内本 稜太さん(大阪府出身)

吹田まつり 大阪府

「吹田まつり」は、吹田のまちづくりと、自治意識を高めることを目的に、1970年大阪万博の年から開催され今年で47回目を迎えます。吹田まつりへの参加を通し、市民相互の連帯を強めるとともに、未来を担う若い世代に夢と活力を与え、市内商工業の発展に寄与することを目指しています。今年は7月30日(土)に前夜祭、31日(日)に本祭りを開催します。

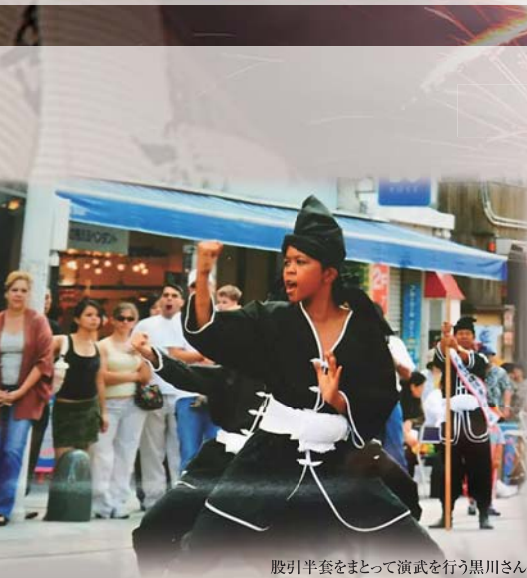


写真提供：吹田市

那覇大綱挽まつり

(旧那覇まつり) 沖縄県

沖縄では綱引きでその年の吉凶を占う風習が残っており、那覇の綱挽は1600年代から行われていたとされます。毎年体育の日を含む3連休に、各町の挽き手らによる行列とともに、股引半套(むむぬちはんたー:那覇大綱挽の正式の黒衣装)をまとった若者が、各町の象徴である旗頭を持って練り歩き、綱挽会場へ移動します。大綱の全長は約200m、総重量約43t。東西にある勝負線を越えると勝敗が決まり、決まるまで例年20~30分かかるとのこと。終了後は、大綱に取り付けられた手綱を縁起物として持ち帰ることができます。



股引半套をまとって演武を行う黒川さん

青柳神社 秋季例大祭 福島県

青柳神社には山の神様が祭られており、毎年10月14日、15日の2日間、五穀豊穡や家内安全を祈願して行われます。子どもから大人まで幅広く参加し、地域文化として子どもたちに根付いているので、幼少期から参加する人が多いとのこと。参加者はみこしと共に太鼓や笛を吹きながら街中を練り歩きます。太鼓は子どもの部と大人の部に分かれており、本番前に試験を受ける必要があります。参加する人の祭りへの意識が高く、地域住民が一丸となつてつくられている祭りで。



大人から子どもまで楽しめる!年に一度の大イベント

幼い頃から太鼓と笛で祭りに参加してきました。笛は祭りの場を華やかにしてくれて、「祭り」という雰囲気が感じられます。太鼓は祭りに出るための試験があり、演奏によって赤・青・紫の3段階に評価されます。練習を懸命にして一番良い紫の評価をもらったときはすごくうれしかったです。祭りに参加することでたくさんの友人に会うことができ、終わったときは達成感でいっぱいでした。祭りに関わることがうれしく、年に一回の楽しいイベントです。



文学部 4年次生
保田 茜さん(福島県出身)

みんなで一緒に考えよう。関大誌上教室

人工知能と共に生きる!?

自動運転車や囲碁の対決など、最近何かと話題にのぼる「人工知能(=AI)」。

人間の学習を支援するシステムを研究しているシステム理工学部・小尻智子准教授のもと、

さまざまな学部・研究科の関大生が集まり、将来の可能性や望むことなど、自由に意見を交換してもらいました。

「人工知能」に どんなイメージを持っていますか？

野島 囲碁部なので、やっぱり今年、プロ棋士に人工知能が4勝1敗で勝ったことが強く印象に残っています。

塩田 私は人工知能という言葉が飛躍し過ぎていると思います。みんなが考えるような心を持った人工知能などはまだ先、という意見もあり、分かりづらいですね。

笹部 教員志望の私は将来、教育現場で教師の代わりではなく、あくまでツールとしての人工知能の活用を望みます。導入されるころは私たちより、生まれたときから機械になじんでいる子どもたちにとって身近な存在になるのではないのでしょうか。

藤原 人とのやりとりの中で人がすることを人のように代行してくれるのが私の人工知能に持っているイメージです。

吉田 私と藤原さんは総合情報学研究科で、エージェントと呼ばれるロボットが人に伝達する方法・表現の研究をしています。人工知能は数値的な処理など、より難しいことをするイメージ。私たちは知能面より、呼吸や体温、鼓動、間合いなどで温かみのある外面的な部分を研究して掘り下げています。

三木 人工知能のイメージはやっぱり機械学習ですね。今の人工知能は将棋や囲碁なども相手のパターンを精査して対戦するので、まだまだ機械学習の域。私は、人が分からないことを、どうすれば理解できるかなど、さまざまな要素を抽出し機械学習に組み込むことで映画に出てくるような人工知能ができないかと考えています。

橋本 現在、人工知能はコールセンターで試験運用され、自動運転システム等の危機回避に使われるなど実用化され、話題になっています。人工知能の勝利が難しいとされていた囲碁の対戦も学習方法の変更によってその力が飛躍的に伸びました。そのように、適した学習方法が見つかれば、感情を持った「人」と同じような対応ができる人工知能も生まれるのでは私は思っています。

小尻 皆さん、背景の違いから持っているイメージにも差があるようです。実は人工知能の研究には、危機回避をし、ゲームの対戦、人間のように感情表現する「人と同じような」アウトプットができるものを作る立場と、私が研究している、人間の中身や、頭の動き、感情の仕組みを解明し、動きを知り、システムとして組み込んだものを作るという2つの立場があります。

「人間っぽいとは何か」、 「知能とは何か」について話しましょう。

橋本 危機回避について言えば、車などは人が運転するとどうしてもミスが起こる。私はミスには人らしいものと機械っぽいものがあるって、前者なら同じ人間同士で予測しやすいけれど、後者は人の反射速度を超えたミスじゃないかと思うんです。ここでの人間らしさは、ミスの原因が漠然と相手からも分かるということ。人工知能の囲碁対戦では、プロ棋士が解説で人工知能の打った手の有効性を説明できない一幕があったといいます。つまり理由の説明がつく、推測しやすいのが人らしさ。ちなみに囲碁は人工知能同士を闘わせることで強くなったそうです。

小尻 機械学習では、最近は計算機の数も上がり大量のデータを処理できるため、いろいろなことが可能になりました。橋本さんの意見では人間っぽいというのは「人が推測できる」ということですね。それなら人工知能は人が推測できないから「人らしく」ない？人工知能は人を超えられるのでしょうか。

橋本 いえ、人工知能が発展するうえで、人間を超える部分もあると思います。

小尻 じゃあ、「知能」って何ですか。賢さなのか、感情も知能に帰結するのか。人らしい仕組みを持つということなのでしょう。皆さんは、この「知能」で、将来何ができると思いますか。

塩田 人らしさに関連しますが、人には理性より感情や感性が勝つ

瞬間があり、食物や気温などの影響で体内のホルモンバランスが崩れて脳に伝達され、モチベーションが保たれる。そんな人自身が気付かない、脳科学的な側面を人工知能にプログラミングできれば、人らしい仕組みができるのではないかと思います。

吉田 よくいわれるロボットが意思を持つというのはとても難しいでしょうが、人が意思を感じられる表現までではできないのでは。

橋本 感情があるような振る舞いを見せられるということですか。もし人工知能が自我を持ったとしてもそれは人工知能にしか分からないので、人間っぽい振る舞いをして見る側が「ロボットだ」という先入観を持つ気がします。

小尻 人工知能とのコミュニケーションが「怖い」という意見もありますね。初期の対話型人工知能も音声だけならよくても、実際に見ると外見とのギャップに「怖さ」を感じる人が多かったそうです。

笹部さんは人工知能が導入されても教育には人間が必要だと言われましたね。

笹部 いろんな子どもがいて、35人いれば35通りの性格があります。子どもたちを見ていると、それぞれの行動への理由付けが難しい。でも対話から生まれる独特の空間が考えを導くことがあり、自分でも分からない力を人間関係で感じるの、その部分は人工知能に代わりはできないと思います。

小尻 人間同士のコミュニケーションですね。今の人工知能は過去のデータから説明に似たものは出せます。だけど人間と同じような対応はしても、知識に基づいて「なぜか」を説明できないし、知識に基づいて自分で判断し新しいものを生み出すことはできません。ところで、人工知能には人間っぽい見た目も必要ですか。

吉田 人の対話では、その人が持つ背景や経験で信頼感が生まれるので、人工知能が解決方法を導き出しても、ただその答えをダイレクトに伝達するだけでは難しい。

三木 人らしさという意味では確かに経験値が大きいですか。なぜロボットは人らしく見えないのかを考えると、技術が発達して新しいものがたくさん出てきても、それは「新しいもの」のために見慣れていない。だから「人じゃない」と感じるのだと思います。

人工知能が人を超えるという 2045年問題についてどう考えますか？

小尻 今の人工知能はまだ空間や対人コミュニケーションの理解などはほとんど人に近付いておらず「人間っぽい」アウトプットの一部だけができていているというのが現状。その観点からは人工知能が人を超えるのは、まだまだと考えられます。

吉田 機械の計算、理論だけでは、思考が入らないから怖い。逆に人間を研究して人間と同じような考え方をする方向へ発展させれば、人と共存していけるのでは。

橋本 軍事的など悪意を持つての開発や、人間らしさのない「知能」のみで人工知能を考えると怖いという意見もあります。人工知能は計算やゲームなど一定の分野では優位に立っても、野生動物の習性のように、人が持っている性格など科学的に解析されていない部分は、人ならではの強みだと思うので、人にしかない特性を生かせば、まだ勝てる分野はあるはずです。

小尻 人間に危害を加える側面を持つ可能性はあると思いますが、そのことが人工知能そのものの発達かというと、多分、知能の一部でしかないでしょう。

最後に、将来人工知能がどう発展して、 どう使われるべきか聞かせてください。

藤原 良くも悪くも人間の特性である「気遣いができる」ものがあるといいですね。暗黙の了解や空気を読むことで人を傷つけない人工知能なら人と仲良くできるかもしれません。

吉田 私は空気を読むロボットの研究をやってみたいです。

笹部 もし学校に人工知能を置いたら、授業や子どもに関わる以外の雑務など見えないところで「縁の下力持ち」になってほしいと思います。

塩田 私は商学部で小売店の購買益を研究している立場から、分析が人工知能で楽になればと思います。たくさんのお店データを収集するうえで、共通点を探したり情報を削ぎ落とす作業が大変なので、人工知能で効率良くできればいいですね。

野島 将来、人工知能が気遣いをできるようになり、病院のような施設で患者さんや高齢の方々の話し相手などに役立つようになると思っています。

小尻 人工知能の定義は、世の中でも立場によって捉え方が違い、共通認識はないといえそうです。人間と同じような知能の代用と認められるには、計算だけではなく感性的なものや非言語的なものも含まれると考えられ、それらは人工知能のこれからの課題。希望としては感性に関わる活動、例えば我々の苦手な非言語的コミュニケーションなどを人工知能がうまく助けてくれることで、人間のやりとりが円滑になればいいと思います。

(敬称略)



藤原邦彦さん
総合情報学研究科 M2



野島優花さん
文学部 2 年次生



塩田銀星さん
商学部 4 年次生



笹部裕也さん
文学部 4 年次生



吉田直人さん
総合情報学研究科 D2



OPINION OF PROFESSOR

システム理工学部 小尻 智子准教授

将棋での対決や、車の自動運転など、人工知能に関するニュースを毎日のように耳にするようになりました。しかし、人工知能とは何でしょう？今回の意見交換からも分かるように、人工知能に関する定義は曖昧で、「すごいことができるコンピュータ」の代名詞として言葉が独り歩きしています。近年活躍している人工知能を用いたシステムの多くは、「機械学習」と呼ばれる技術に基づいています。これは、過去の人の振る舞いを集めた大量のデータから人の行動パターンを

学習することで、入力に対して人が行うような出力ができるようになる技術です。このようなシステムでは、「なぜ」そのような行動をしたのかは説明できません。人の思考過程と同じ機能を持つシステムを実現する立場の研究もされていますが、限られた役割でしか実用化できていません。人の思考だけでなく、心や感情の動きを解明し、それらを模倣できる技術が開発されて初めて、人の代替品ではなく、人に寄り添うことのできる人工知能ができるのかもしれない。

次号のテーマは…「関大生の読書」

皆さんは本を読んでいますか？10月号では「関大生の読書」をテーマに、他大学との比較により大学生の読書傾向を調査します。

乞うご期待ください。

法曹業界／弁護士

共栄法律事務所 福塚圭恵さん

奈良県立奈良高等学校出身
2003年法学部卒業
2006年法科大学院修了



依頼者の方にとって、最良の解決を。
目指す未来に向かい、歩み続けます。

大阪淀屋橋から程近いビルの8階が、弁護士・福塚圭恵さんの職場、「共栄法律事務所」です。ここで福塚さんは企業法務、事業再生・企業倒産、一般民商事件などの案件を扱っています。

福塚さんが弁護士を目指したのは、一生続けることができ、やりがいを感じられると思ったから。そして、仕事を通じて、社会貢献をしたいと考えたからです。さまざまな職業の中で、弁護士を選んだのは資格職であることも大きな理由です。「出産や育児でキャリアを中断することがあっても、資格を失わず、復帰しやすい点は女性として大きな魅力でした。また、働き始めてから感じているのは、弁護士はそれぞれが独立したプロフェッショナル。働き方やライフプランを自分で設計しやすいことも大きな魅力ですね」。

仕事では依頼者の人生に関わることが多いため、悩むことも多いそうですが、しっかりと寄り添い、最善の方法で案件が解決し、依頼者に喜んでもらえるときに、やりがいを感じるそうです。

学生時代の福塚さんは、大学の講義も友人と過ごす時間も、どちらも大切にしていたと言います。大学の講義で身に付けた教養や専門的知識はもちろん、学生時代に培った人とのつながりも、今の仕事をするうえでとても大きな財産になっていると言います。

「学生時代に経験したことは社会人になったときの糧になるので、より多くのものを見聞し、体験してほしい」という福塚さんは最後に「これから進路を考える学生の皆さんは、10年後になりたい自分をイメージすることが大切です。そうすることで自然に今何をすべきかが見えてきます。“未来の自分”を目指して頑張ってください」と、メッセージを送ってくれました。

ある1日の
スケジュール

10:00	出勤・メールチェック・電話対応
10:30	依頼者との打ち合わせ
11:30	契約書作成
13:00	昼食
14:00	裁判所へ移送および裁判への出席
16:30	電話対応
17:30	内部ミーティング
18:30	裁判所へ提出する書面の作成
21:00	帰宅



書面作成・依頼者とのメールなどに使用するパソコンや六法全書、手帳、名刺などが必需品。

Lawyer



「専門演習1」「卒業演習1」 所めぐみ 教授

フィールドワークから未来の地域社会を見つめる。

身近で実施されている福祉活動を学び、各地域における
これからの福祉について考察を深める。

地域福祉とは、その地域に暮らす人々が自立・安心して暮らすために、どのような条件や環境の整備が必要か、どのような方法によってそれを進めていくのかなど、地域における自立生活支援と福祉コミュニティづくりを中心とした地域づくりの実践、理論、政策です。また、地域福祉を効果的に進めるには、福祉への理解と関心を深め、問題を解決する実践力をつけるための福祉教育が重要とされています。福祉教育とは、全ての人が幸せな生活を送ることができるよう、地域社会と連携しながら生活や学習の中で、共に生きる力を育むことを目的とした教育です。

所めぐみ教授のゼミでは、理論学習や事例研究はもちろん、フィールドワークを通じて、地域福祉・福祉教育に関わる活動や実践方法、専門的支援について学びます。特にフィールドワークには力を入れており、今年6月には和歌山県有田市の社会福祉協議会の協力のもと、市の小学校で行われている福祉教育に参加し、地域社会で暮らす住民へのインタビューを小学生と共に実施。3・4年次生合同でフィールドワークの準備を行いました。「学生には、フィールドワークを通じて、地域福祉を実践するうえで必要な、人に関心を持ちその言葉に耳を傾ける姿勢や、現実を知って多様な考え方を受け入れることを身に付けてほしいですね」。

所教授によると、地域福祉は、社会福祉士のような専門職だけではなく、企業側の立場からでも可能とのこと。例えば、企業のCSR活動（社会貢献活動）も、地域との関わり方の一つです。「地域福祉は、住民を中心に暮らしを取り囲む全てが地域を支えていく活動です。このゼミで学んだ学生が、さまざまな業界へ進み、将来、地域福祉・福祉教育に関わってくれたらうれしいですね」。



下浦知実さん(4年次生)

日本に住む外国籍の方などへの地域福祉のあり方について学びたかったことが、このゼミを選んだ理由です。少人数のゼミのため、先生が一人一人の学生とじっくり向き合い、サポートしてくれるので安心して学べます。



江川恵さん(4年次生)

地域福祉に興味があったことはもちろん、このゼミにはフィールドワークがあることが魅力の一つだと思います。将来は、このゼミで学んだ人とのつながりの大切さを、より多くの人に知ってもらえるよう情報発信していきたいです。



人間健康学部 所めぐみ 教授

このゼミは、さまざまな人と関わりながら地域社会や取り組みについて学びたい学生や、地域福祉・ボランティアに興味があるという学生にお勧めだと思います。学生の自発的な姿勢を大切にしている厳しいゼミですが、地域福祉のこれからを考えたいという学生には、ぜひ来てほしいですね。



関大創立者の1人と孫の天才漫画家 「手塚太郎」「手塚治虫」

創立130周年を迎えた関西大学の記念事業として、千里山キャンパスで企画展「関西大学の創立者たち」が始まっています。

ここで登場する創立者の1人、手塚太郎が漫画家、手塚治虫の祖父に当たることは意外と知られていません。

明治時代のエリート司法官と、昭和を駆け抜けた天才漫画家。両者のつながりを関係者や各種文献から探ってみました。



(年史編集室提供)

手塚 太郎

手塚太郎 明治の司法官

関西大学の前身、関西法律学校は明治19年(1886年)11月、12人の創立者により大阪西区の願宗寺で開校しました。第1回の卒業式は3年後の明治22年(1889年)で卒業生はわずか17人でした。手塚太郎は開校当時25歳。大阪始審裁判所検事のまま講師として教壇に立ちました。その講義は学生にとってノートのとりやすい整然としたもので評判を呼びました。

手塚太郎は明治9年(1876年)、司法省法学校に入学しました。この学校は明治政府の司法官を育成しようと設立され、手塚太郎はその2期生としてエリート教育を受けました。**首席で卒業し、千葉始審裁判所検事を振り出しに大阪地裁検事正、名古屋控訴院検事長などを歴任し、大正14年(1925年)退職して晩年は兵庫県宝塚市で暮らしました。**

「陽だまりの樹」のモデル

この祖父の家で治虫は少年時代を過ごしますが、4歳のとき太郎は亡くなりました。2人のつながりは、この宝塚での接点しかありませんが、漫画の中に太郎らしき人物が登場します。治虫のファンで、収集した漫画200冊を関西大学に寄付した校友の湯川敏治さんは、2人の関係について論文にまとめています。

それによると太郎の父は良仙といい、幕末の優秀な医師の1人でした。**治虫はこの良仙をモデルとした医師と、架空の剣客を主人公に、長編漫画「陽だまりの樹」を描きました。**2人は寺の娘をめぐる恋敵ですが幕末の歴史に翻弄されながらも友情を育む、というストーリーです。この終盤で太郎らしき少年が父親に長崎留学を相談するシーンがでています。

法律家の空想物語と治虫少年

ところで治虫の従兄弟・岸本太郎さん(故人、元三菱銀行常務)は、漫画家として成功し、東京に居を構えた治虫の自宅に何度か訪ねています。その際岸本さんの娘、大田信子さん(東京都杉並区在住)も少女時代と一緒に訪ねました。その大田さんによると、治虫は優しい人柄で、信子さんを喜ばせようと、鉄腕アトムの絵を描いてくれたり「君は女の子だから、こちらの方がいいかな」とリボンの騎士を手早く描いてくれたといいます。その帰り道、岸本さん信子さんにこう語りました。「(治虫さんは)手塚のじいさん(手塚太郎)とそっくりだ。じいさんも私が小さいころ、よく宇宙少年や当時まだ実現していない高速道路など、空想的な物語を器用に絵を描きながら子どもたちに話してくれた」。

治虫の父親も、その時代では珍しく、漫画を収集していました。また岸本さんも絵を描くのが好きだったそうです。どうやら謹厳実直な司法官、手塚太郎の遺伝子に「絵心」というDNAが含まれ、それが係累の所々で顔を出し、稀代の漫画家が生まれたのかも知れません。



(湯川敏治さんが関西大学に寄贈した手塚治虫作品の一部)



法学部4年次生

松村 拓磨さん

突き詰めることに、面白さを実感。

体育会弓道部の主将を務める松村拓磨さん。弓道で身に付いたであろう凛とした姿勢の松村さんが、そもそも弓道を始めたのは高校入学後の部活見学での、ある出来事がきっかけでした。見学でたまたま弓道部を訪れた松村さんは、一緒にいた友人と騒ぎ過ぎてしまい、主将に叱られてしまったそうです。そのときに、「このままでは悔しいから、弓道部に入って見返してやろう」と思い、入部を決意。

思わぬきっかけで始めた弓道でしたが、やればやるほど奥深さを知り、いつしか純粋に弓道の魅力にはまっていました。松村さんは、「的中したときの爽快感」が弓道の魅力だと言います。「的に当てたときの気持ちよさが、弓道を続けられている大きな理由になっているかもしれないですね」。そして、今では弓道部をまとめる存在になり、主将として部の王座獲得、つまりは日本一を達成すべく、先頭に立ち、引っ張っていく役割を担っています。

弓道部は、弓道に興味があるなら初心者でも積極的に勧誘。そのため、半数以上が大学から始めた初心者で構成されているのが特徴です。毎年新入生に弓道の楽しさを知ってもらえるよう、勧誘プロモーションビデオの制作や懇親会の開催などにも力を入れており、その甲斐もあって、今年は33人の新入部員が加わり、現在95人の部員が所属しています。

他大学と比べてかなり大所帯ということもあり、一人一人になかなか目が行き届きにくいこともあるそうですが、主将として誰よりも部にいる時間を増やし、部員全体を見るように心掛けることはもちろん、幹部と協力しながら部の状況把握に努めているそうです。松村さんいわく「個性豊かな部員ぞろい」。その弓道部について、「誰にでも良いときと悪いときの波はあるし、特に弓道ではよくあること。だからこそ、どんな時も諦めずに練習をし続けてほしい」、そして「絶対に自分ではできる、練習をし続ければ結果はいずれついてくるという気持ちを持ち続けてほしい」と熱く語ります。

松村さんは今、主将としての活動と並行して就職活動中です。就職先の業界や職種を問わず、「常に自分が成長できる環境に身を置きたい」と話します。心と身体を鍛錬する武道を歩む松村さんらしい言葉から、放たれた矢のように真っ直ぐな気持ちが伝わってきました。



弓道部員の皆さんと

次回は、松村さんからのご紹介で社会学部3年次生の濱口智美さんが登場。お楽しみに！

Takuma Matsumura

平成27年度 学校法人関西大学 決算の概要

— 創立130周年に向けて —

この伝統を、超える未来を。



学校法人関西大学 理事長 池内 啓三



1 はじめに

平成27年度決算は、常任理事会の審議を経て、理事会（平成28年5月12日）で議決・承認され、評議員会（平成28年5月26日）に報告いたしました。明治19年に、児島惟謙の支援を得て、12人の創立者によって関西初の法律学校として誕生した関西大学は、今年創立130周年を迎えます。現在では、13の学部、15の研究科（3専門職大学院を含む。）および留学生別科を擁する大学と、幼稚園から高等学校までの8つの併設校を設置し、学生生徒等が約35,000人に及び総合学園となりました。これまでに巣立った校友は約44万人にのぼります。

平成27年度は、大学院ガバナンス研究科に博士課程後期課程を設置し、さらには、連合教職大学院（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科）に参画するなど、新たな教育の実践に取り組みました。

また、今年11月に迎える創立130周年を大きな節目ととらえ、ハード面では、①千里山キャンパスに新たなアクセス・エリアの創出、②イノベーション創生センターの建設、③梅田キャンパスの開設、ソフト面では、④なにわ大阪研究センターの設立、⑤グローバルフロンティアプログラム（KUGF）の開発による次世代グローバルリーダーの育成事業、⑥「学縁」給付奨学金制度の構築など、教育研究環境のさらなる充実に向け、さまざまな記念事業を実施します。さらに、「豊臣期大坂御屏風」コンサートやシンポジウムなど、多彩な行事も開催いたします。

併行して、創立150周年に向けた次期長期ビジョンの原案策定や、今年10月に発足する第18期理事会に向けたガバナンス体制の検討整備など、将来に向けた取り組みを行いました。

今後も、教育研究活動を支える財政の長期安定化を目指し、さらなる努力を重ねてまいりますので、皆さま方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2 事業の概要

平成27年度に実施した事業のうち主なものは、次のとおりです。

(1) 教育研究活動

ア 「関西大学国際化戦略2014-2023 TRIPLE I 構想」の策定推進

平成26年度に策定した「関西大学国際化戦略2014-2023 TRIPLE I 構想」に基づき、グローバル人材育成のための諸施策を実行するため、学長をリーダーとする「国際化戦略実行委員会」のもとで、英語教育の改革部会などの6つの専門部会を中心に、国際化事業を実施しました。英語教育については、COIL*1、CLIL*2

といった英語教育手法を中心に、本学教育職員の英語による授業展開のためのFDやワークショップを実施しました。また、学生および研究者の活発な国際交流を推進するため、海外大学との協定締結方針及び関連規程の改正を行い、部局間協定を含めた協定校数の大幅な拡充を図りました。さらに、本学の海外拠点（台湾・タイ）を活用したサテライト授業実現に向けた準備を進めました。

- *1 COIL (Collaborative Online International Learning) : ICTを用いて、バーチャルに海外の教育機関と交流学習を行う活動
- *2 CLIL (Content and Language Integrated Learning) : 専門教科を英語で学び教科知識、語学力、思考力、協同学習する力を統合して育成する教授法

イ マルチリンガルイマージョン学習スペースの開設

「マルチリンガルイマージョン学習スペース（通称：Mi-Room）」を、平成27年6月、総合研究室棟1階にオープンしました。コミュニケーションは英語を基本とし、イベント・プログラムや教員による語学力向上指導等を通じて、学生が主体的に異文化交流・国際体験をすることにより、留学レディネスを高め、自立した留学を実現することを目的としています。



【マルチリンガルイマージョン学習スペース】

ウ 「グローバル奨学金・援助金」制度の創設（創立130周年記念事業）

本制度は、次世代グローバル人材の育成を目指し、各学部・研究科および国際部が実施する国際化プログラム等に参加する本学学生や海外からの優秀な留学生に対し、奨学金および援助金として経済的支援を行うことを目的に創設されました。

初年度となる平成27年度秋学期（第1期）は、本学学生248人に対して奨学金・援助金を支給しました。事業最終年度の平成29年度までに、本制度を利用した海外留学や留学生受入が活性化し、学生の国際人基礎力の養成を促進することが期待されます。

エ 連合教職大学院（大阪教育大学大学院連合教職実践研究科）の開設

大阪教育大学を基幹大学とし、本学および近畿大学を参加大学とする「連合教職大学院」が、平成27年4月に開設され、教育実践力開発コース（入学定員15人）に、本学から、第1期生として7人、第2期生（平成28年4月入学）として5人が入学しました。また本学教育推進部から教員を派遣し、授業その他同大学院の運営に従事しています。本学出身学生が今後、同課程の中心的存在として活躍することが期待されます。

オ 日本・EU研究センター創設10周年記念行事の開催（創立130周年記念事業）

創立130周年記念事業として、また、ベルギー王国のルーヴェン大学に設置している「関西大学日本・EU研究センター」創設10周年記念行事として、11月4日から3日間にわたり、「Japan Week」を実施しました。

“Haikai Literature and Western Adaptations”と題した国際シンポジウム、両大学の学生らによる研究報告やポスターセッションなど活発な議論が展開されたJapan Weekプレゼンテーション・EUワークショップのほか、元欧州理事会議長ヘルマン・ファン・ロンパイ氏への名誉博士号贈呈式や、俳人でもある同氏による基調講演、本学名誉博士でルーヴェン大学教授のウィリー・F・ヴァンドゥワラ氏に対する学長表彰などを実施し、日本・EU間における貴重な学術交流の機会となりました。



【ヘルマン・ファン・ロンパイ名誉博士の基調講演】

カ 就職状況・キャリア形成支援について

平成27年度は、政府の方針により、採用選考開始日を8月1日以降とする、所謂「後ろ倒し」が取り決められていましたが、企業等の採用意欲が総じて旺盛で、電機・鉄鋼・繊維を中心とした製造業を中心に、次世代技術開発を狙っての理工系採用の増加をはじめ、留学生の積極採用などグローバル採用を拡大したことで、大卒者全般の雇用が膨らんだ結果、本学学生の就職率は97.5%となり、平成26年度を0.2%上回りました。

また、エクステンション・リードセンターでは、英語、公務員、司法、会計職、SPI試験対策、その他資格講座などの13講座を開講し、受講生は延べ3,501人となり、宅地建物取引主任者、総合旅行業務取扱管理者、色彩検定1級などの各種資格試験で全国平均合格率を上回りました。

(2) 教育研究環境の整備充実関係

ア 梅田キャンパス土地及び千里山キャンパス隣接地の取得（創立130周年記念事業）

平成27年6月に、梅田（大阪市北区鶴野町）という交通至便の地に806.57㎡の土地を取得しました。現在、平成28年10月の

開設に向けてキャンパス建設工事が進んでいます。

梅田キャンパスは、本学教職員、学生、校友をはじめ広く一般社会人が集い、賑わう場所を創出し、“人を導き、繋ぎ、自ら起こし、創る「人」を育成～「考動」を実践する場の創出～”を企図しています。現在予定している事業概要は、①社会人学び直し等をはじめとした教学利用、②起業家育成のスタートアップ事業、③会員制異業種交流サロン事業、④生涯学習に資する事業などです。

「考動」を実践する“場”の創出のために



また、平成27年7月に、第3学舎西側隣接地（818㎡）を取得しました。これにより、千里山キャンパスは阪急関大前駅と直結することになり、平成28年8月に、同駅北口の東側に新たなメイン通路が開通する予定（千里山キャンパス新アクセス整備工事）です。

イ 「第4学舎4号館」の竣工

第4学舎4号館は、老朽化が著しい第4学舎2号館（実験棟）を解体した跡地に、教室機能の充実を目的として平成28年3月に竣工しました。建物は鉄骨造、地下1階地上3階、延床面積3,428.23㎡で、小教室4室、中教室4室、大教室1室、エレベーター2台が配置されています。また、第4学舎2号館の研究棟と本館棟を渡り廊下でつなげることで、各棟への動線がスムーズになりました。



【第4学舎4号館】

(3) 創立130周年記念事業関係

「関西大学創立130周年記念事業募金」(募金目標額20億円、当初所要資金総額40億円)については、多くの方々にご賛同をいただき、平成28年3月末現在の募金申込状況は約13億円(達成率64.74%)となりました。

また、創立130周年記念事業特設ウェブサイトでは、サイト内にリレーメッセージやデジタルパンフレットの掲載、各種記念事業・行事の実施状況の報告等、最新の情報発信を行っています。特にインターネット募金については、申込手続きを簡素化し、利用者サービスの向上に努めました。

また、平成27年度は、「グローバル奨学金・援助金」の創設、日本・EU研究センターの10周年記念行事の開催、奨学生会「葦の葉倶楽部」の発足、NPO法人「関西大学カイザーズクラブ」との連携などの諸事業を実施したほか、梅田キャンパス開設、千里山キャンパス新アクセス整備工事、イノベーション創生センター建設工事など、平成28年度の記念事業実施に向け、準備を進めています。

3 収支計算書

学校法人会計基準の改正に伴い、平成27会計年度から新たな計算書を作成することになりました。このたびの改正は、学校法人会計基準の制定から40年が経過し、社会・経済状況の大きな変化、会計のグローバル化など学校法人を取り巻く環境の変化等を受けて、学校法人の経営状態を社会にわかりやすく説明できる仕組みとなるよう行われたものです。主な改正点は、①従来の「消費収支計算書」が「事業活動収支計算書」になり様式および名称を変更すること、②「事業活動収支計算書」に「基本金組入前当年度収支差額」を記載すること、③区分経理が用いられること、などです。

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、かつ、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにするものです。資金の動きのすべてが計算の対象となります。

「事業活動収支計算書」は、当該年度における学校法人全体の諸活動を、事業活動収支計算の基準に基づいて計数として表示したものです。学校法人の諸活動に伴う収支を経常的な収支と臨時的な収支に区分し、それぞれの収支の均衡状況とその内容を明らかにすることによって、学校法人の経営状況が健全に維持されているかどうかを示すものです。

「貸借対照表」は、学校法人の一定時点(決算日)における資産、負債、純資産(従来の基本金および消費収支差額)の財政状態を示すものです。

「財産目録」は、「貸借対照表」を基準にして組み替えて作成したものです。

「監査報告書」には、私立学校法第37条第3項第3号に基づく監事による「監事監査報告書」および私立学校振興助成法第14条第3項に基づく監査法人による「独立監査人の監査報告書」があります。

ここでは紙幅の関係上、計算書類の総括表のみ掲載しておりますが、「関西大学ウェブサイト」に財産目録などの詳細な財務情報を掲載いたしておりますので、ご覧ください。【URL:http://www.kansai-u.ac.jp/zaimu/】

4 収支決算の概要

(1) 資金収支決算

平成27年度資金収支決算は、12ページに掲載の「資金収支計算書(総括)」のとおりです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、596億3,275万3,963円となりました。

資金支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費、施設設備費のほか、借入金返済などの支出を含め、599億2,077万3円となりました。この結果、収支差引き2億8,801万6,040円の支出超過となり、これに前年度繰越支払資金139億9,442万7,793円をあわせた結果、次年度繰越支払資金は、137億641万1,753円となりました。

(2) 事業活動収支決算

平成27年度事業活動収支決算は、12ページに掲載の「事業活動収支計算書(総括)」のとおりです。

経常的な収支のうち、教育および研究活動の収支状況を表す教育活動収支では、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの教育活動収入から、教職員の人件費や教育研究経費などの教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額が13億6,505万5,357円の収入超過となり、予算に対し6億6,824万6,643円の減となりました。また、主に財務活動の収支状況を表す教育活動外収支差額は3億6,713万9,288円の収入超過となりました。この結果、経常収支差額は17億3,219万4,645円の収入超過となり、予算に対し4億8,049万9,355円の減となりました。これに資産の売却や処分等にかかる臨時的な収支を表す特別収支差額7億8,310万6,321円の収入超過を加えた基本金組入前当年度収支差額は25億1,530万966円の収入超過となり、予算に対し4億8,190万9,966円増加しました。

一方、基本金組入額は、施設設備あるいは将来の施設取得に係る積立金や基金などに充当するもので、1億5,650万9,510円となり、予算に対し42億5,363万5,490円の減となっています。これは、平成27年度から、機器備品等の減価償却計算方法を「個別償却」から「グループ償却」に変更したため、償却満了資産を一括除却したことにより生じた、第1号基本金の取崩し対象となる159億8,102万3,282円は、第1号基本金の組入対象となる35億5,498万6,454円を超える124億2,603万6,828円を基本金取崩額として取り扱うこととなり、第3号および第4号基本金のみ組み入れたためです。

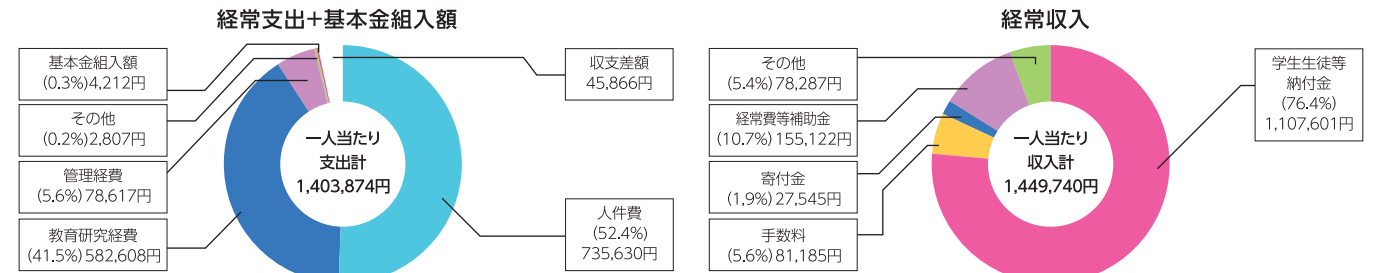
平成27年度決算における事業活動収支の均衡状況を表す当年度収支差額は、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた23億5,879万1,456円の収入超過となり、予算に対し47億3,554万5,456円改善しました。この結果、当年度収支差額と前年度繰越収支差額の合計から、基本金取崩額を差し引いた翌年度繰越収支差額は264億4,640万5,419円の支出超過となりました。

また、この累積収支差額の外かに、建物などの取得に際し、借り入れた借入金の未返済額にあたる基本金未組入額が82億9,466万円ありますので、実質上の繰越収支差額はこれをあわせた347億4,106万5,419円の支出超過となります。

(3) 貸借対照表

平成27年度末(平成28年3月31日)現在の資産、負債、純資産の財政状態を示しています。

平成 27年度 事業活動収支決算における「学生生徒等一人当たりの経常的な支出とこれを賄う収入」



- (注) 1 事業活動収支決算における経常的な支出(教育活動支出、教育活動外支出、基本金組入額)及び収入(教育活動収入、教育活動外収入)の決算額を、科目ごとにそれぞれ学生数34,354人(大学院・学部・留学生別科・高校・中学校・小学校・幼稚園の学費納入者合計)で除して、学生生徒等一人当たりの平均値を示したものである。
2 「基本金組入額」とは、校地、校舎、機器備品、図書などの取得、あるいは、そのための借入金の返済、又は将来取得のための積立金などの主として資本的支出に充てる額である。

資金収支計算書(総括) 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

支出の部				収入の部			
科 目	予算	決算	差異	科 目	予算	決算	差異
1 人件費支出	25,081,430,000	25,345,025,451	△ 263,595,451	1 学生生徒等納付金収入	37,746,585,000	38,040,998,456	△ 294,413,456
2 教育研究経費支出	14,122,861,000	14,112,578,549	10,282,451	2 手数料収入	2,751,140,000	2,764,506,512	△ 13,366,512
3 管理経費支出	2,279,498,000	2,532,121,712	△ 252,623,712	3 寄付金収入	1,344,000,000	953,557,727	390,442,273
4 借入金等利息支出	65,441,000	56,136,602	9,304,398	4 補助金収入	5,822,398,000	5,628,247,981	194,150,019
5 借入金等返済支出	1,230,620,000	1,230,620,000	0	5 資産売却収入	200,000,000	728,997,913	△ 528,997,913
6 施設関係支出	6,131,467,000	5,565,564,393	565,902,607	6 付随事業・収益事業収入	1,085,654,000	1,050,859,359	34,794,641
7 設備関係支出	1,258,102,000	1,211,939,364	46,162,636	7 受取利息・配当金収入	244,833,000	423,275,890	△ 178,442,890
8 資産運用支出	9,293,022,000	8,441,787,373	851,234,627	8 雑収入	1,158,407,000	1,248,167,968	△ 89,760,968
9 その他の支出	3,111,036,000	2,930,479,294	180,556,706	9 借入金等収入	1,500,000,000	1,500,000,000	0
10 予備費	500,000,000	――	500,000,000	10 前受金収入	8,064,731,000	8,371,472,383	△ 306,741,383
11 資金支出調整勘定(小計)	△ 1,794,514,000	△ 1,505,482,735	△ 289,031,265	11 その他の収入	6,782,984,000	6,990,745,337	△ 207,761,337
12 翌年度繰越支払資金	11,657,673,000	13,706,411,753	△ 2,048,738,753	12 資金収入調整勘定(小計)	△ 7,758,524,000	△ 8,068,075,563	309,551,563
支出の部合計	72,936,636,000	73,627,181,756	△ 690,545,756	13 前年度繰越支払資金	13,994,428,000	13,994,427,793	207
(注) 予算の流用を含む。				収入の部合計	72,936,636,000	73,627,181,756	△ 690,545,756

事業活動収支計算書(総括) 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

事業活動収支の部				特別収支の部			
科 目	予算	決算	差異	科 目	予算	決算	差異
1 学生生徒等納付金	37,746,585,000	38,040,998,456	△ 294,413,456	1 資産売却差額	0	528,997,913	△ 528,997,913
2 手数料	2,751,140,000	2,764,506,512	△ 13,366,512	2 その他の特別収入	436,771,000	407,334,736	29,436,264
3 寄付金	1,300,000,000	928,682,671	371,317,329	特別収入計	436,771,000	936,332,649	△ 499,561,649
4 経常費等補助金	5,558,627,000	5,348,530,981	210,096,019	事業活動支出の部			
5 付随事業収入	1,085,654,000	1,050,859,359	34,794,641	科 目	予算	決算	差異
6 雑収入	1,158,407,000	1,247,513,335	△ 89,106,335	1 資産処分差額	116,074,000	146,684,291	△ 30,610,291
教育活動収入計	49,600,413,000	49,381,091,314	219,321,686	2 その他の特別支出	0	6,542,037	△ 6,542,037
事業活動支出の部				特別支出計	116,074,000	153,226,328	△ 37,152,328
科 目	予算	決算	差異	特別収支差額	320,697,000	783,106,321	△ 462,409,321
1 人件費	25,090,552,000	25,274,276,048	△ 183,724,048	予備費	500,000,000	――	500,000,000
2 教育研究経費	20,018,753,000	20,032,253,443	△ 13,500,443	基本金組入前当年度収支差額	2,033,391,000	2,515,300,966	△ 481,909,966
3 管理経費	2,457,806,000	2,707,823,966	△ 250,017,966	基本金組入額合計	△ 4,410,145,000	△ 156,509,510	△ 4,253,635,490
4 徴収不能額等	0	1,682,500	△ 1,682,500	当年度収支差額	△ 2,376,754,000	2,358,791,456	△ 4,735,545,456
教育活動支出計	47,567,111,000	48,016,035,957	△ 448,924,957	前年度繰越収支差額	△ 41,231,234,000	△ 41,231,233,703	△ 297
教育活動収支差額	2,033,302,000	1,365,055,357	668,246,643	基本金取崩額	15,981,023,000	12,426,036,828	3,554,986,172
教育活動外収入の部				翌年度繰越収支差額	△ 27,626,965,000	△ 26,446,405,419	△ 1,180,559,581
科 目	予算	決算	差異	事業活動収支の部			
1 受取利息・配当金	244,833,000	423,275,890	△ 178,442,890	特別収入計	50,282,017,000	50,740,699,853	△ 458,682,853
2 その他の教育活動外収入	0	0	0	事業活動支出計	48,248,626,000	48,225,398,887	23,227,113
教育活動外収入計	244,833,000	423,275,890	△ 178,442,890				
事業活動外支出の部							
科 目	予算	決算	差異				
1 借入金等利息	65,441,000	56,136,602	9,304,398				
2 その他の教育活動外支出	0	0	0				
教育活動外支出計	65,441,000	56,136,602	9,304,398				
教育活動外収支差額	179,392,000	367,139,288	△ 187,747,288				
経常収支差額	2,212,694,000	1,732,194,645	480,499,355				

(注) 予算の流用を含む。

貸借対照表 平成28年3月31日

資産の部				負債の部			
科 目	平成27年度末	平成26年度末	増 減	科 目	平成27年度末	平成26年度末	増 減
資産の部				純資産の部			
固定資産	201,753,157,509	196,313,188,937	5,439,968,572	基本金	212,033,865,921	224,303,393,239	△ 12,269,527,318
有形固定資産	116,079,423,226	115,465,454,394	613,968,832	第1号基本金	188,585,240,384	201,011,277,212	△ 12,426,036,828
特定資産	81,655,800,231	76,558,315,384	5,097,484,847	第2号基本金	100,000,000	100,000,000	0
その他の固定資産	4,017,934,052	4,289,419,159	△ 271,485,107	第3号基本金	19,937,625,537	19,908,116,027	29,509,510
流動資産	16,141,309,358	17,238,185,297	△ 1,096,875,939	第4号基本金	3,411,000,000	3,284,000,000	127,000,000
資産の部合計	217,894,466,867	213,551,374,234	4,343,092,633	繰越収支差額	△ 26,446,405,419	△ 41,231,233,703	14,784,828,284
負債の部				翌年度繰越収支差額	△ 26,446,405,419	△ 41,231,233,703	14,784,828,284
固定負債	19,858,066,698	19,807,743,228	50,323,470	純資産の部合計	185,587,460,502	183,072,159,536	2,515,300,966
流動負債	12,448,939,667	10,671,471,470	1,777,468,197	負債及び純資産の部合計	217,894,466,867	213,551,374,234	4,343,092,633
負債の部合計	32,307,006,365	30,479,214,698	1,827,791,667				

学部・研究科トピックス

法学部／法学研究科

クジで決めるというやり方

研究論文（ゼミ論文）を書きたいけれど何をテーマにすればよいか分らない、という声をよく聞きます。学部生に求められる論文は、その形式が学問的なものであればよいので、法学では、判例研究として、判例百選の中から適当に選ぶというやり方があります。クジでも使って1つの判決（できれば最高裁判決がよい）を選び、その判決が解説者の見解に反対する文章を書けば、それで論文となります。ただ、その反対する（法的）根拠を考えたり探したりするのは、夏休みも短すぎるかもしれません。

（学生相談主事 横田直和教授）

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

「知のナビゲーター」必履修化

大学生として学んでいくために必要な能力である「読む」「調べる」「書く」「発表する」「議論する」といったアカデミック・スキルを養う授業として、文学部では従来から「知のナビゲーター」という初年次導入科目を運営してきましたが、2016年度からはこれを必履修科目とし、新入生は全員1年次生の春学期に履修することが求められるようになりました。どの専修に進むにしても、これらの基礎技能が必要となりますので、大学生活のスタート時点でしっかり身に付けるようにしてください。

（教学主任 小林剛教授）

経済学部／経済学研究科

自治会主催でフレッシュマンセミナーを開催

今年度も経済学部では自治会主催でフレッシュマンセミナーを開催しました。今年はグループディスカッションとプレゼンテーション大会を実施し、プレゼンテーションでは新入生が緊張しながらも精一杯自分たちで考えた案を披露し、大変盛り上がったプレゼンテーション大会となりました。

（神原雄一郎教授）



政策創造学部／ガバナンス研究科

第1回政策公務セミナー開催

4月27日、政策公務セミナーとして、池田市から職員の皆さんにおいでいただき、公務員の仕事や池田市における地方分権活動についてお話を伺ったほか、昨年度の学生サポーターも経験談を発表しました。学生にとって地方自治体の仕事に関心を持つ良い機会になったと思います。

（浅野宜之教授）



外国語学部／外国語教育学研究科

成績優秀者ほか表彰

4月13日、外国語学部では成績優秀者3人、資格取得者2人、社会的活躍者16人の合計19人（うち2人重複）を表彰し、教授会の席上にて表彰状を授与いたしました。学生諸君の向上心をおおるべく、1) 在学中に優秀な成績をおさめた学生、2) 社会的に評価の高い賞や資格を取得した学生、あるいは顕著な貢献を社会に対して行った学生（もしくはグループ）を対象に、例年表彰制度を実施しています。次回は11月末から1月末にかけて申請受付を予定しています。奮って申請してください。

（玄幸子教授）

人間健康学部／人間健康研究科

人間健康研究科後期課程の設立

2016年4月、人間健康研究科に博士課程後期課程が設立されました。3月には修士課程第1期修了生13人を送りだしたところでしたが、この4月に、後期課程に4人、前期課程には14人と、定員をこえる入学者を迎えて、新たな体制で大学院教育・研究がスタートしたところです。人間健康学部が創設されて6年が経過し、いよいよ大学院課程の前期課程と後期課程を備えた部局となることができました。学士課程から博士課程まで、それぞれのレベルで健康（Health）と健幸（Well-being）を追求する教育・研究を深めていきます。

（黒田研二教授）

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

夏休みに向けて

7月中旬から順次始まる「到達度の確認」や「定期試験」を終えれば長い夏休みです。まずは、心置きなく夏休みを迎えられるよう、春学期の学習の全般を振り返り、万全の準備を整えて「到達度の確認」や「定期試験」に臨んでください。1年次生の皆さんにとっては、大学生として初めての夏休みです。クラブやサークルの活動で既にスケジュールが埋まっている方もおられるでしょうし、どのように過ごそうかと思案中の方もおられるでしょう。社会に出れば今のように長い休暇をとることは難しいので、これをまたと

無い「学び」の機会と捉え、何らかの目的と目標をもって有意義に過ごされることを期待しています。自身の志向や適性を見つめ、進路について考える良い機会かもしれません。そのための、あるいはそれを踏まえた勉強や職業体験（アルバイトやインターンシップ）も良いでしょう。4年次生の皆さんにとっては最後の夏休みです。就職活動や大学院入試、特別研究などで忙しいかもしれませんが、体調管理に十分注意してください。秋学期に向けて、英気を養うべく、趣味やスポーツなどでリフレッシュすることも

（環境都市工学部 松田敏教授）

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

ビジネスプラン・コンペティションKUBICを開催

KUBIC（キュービック）は、商学部の学生によるKUBIC学生実行委員会が、教職員とともに企画・運営するビジネスプラン・コンペティションです。今回で11回目を迎えます。ビジネスプランの応募件数は毎年増加し、全国規模のコンペティションに成長しました。2段階の厳正な審査を経て、本選会に出場する入賞プランが8月に決定します。本選会は10月8日（土）の午後、千里山キャンパスBIGホール100で開催します。記念品も用意していますので、ぜひとも学生たちの熱のこもったプレゼンテーションをご覧ください。（岩本明憲准教授）

総合情報学部／総合情報学研究科

交通渋滞のため、運行に遅れが出る場合があります

もうすぐ試験ですね。受験上の注意はいろいろありますが、総合情報学部に通う皆さんは、通学時間にも注意してください。関西大学で唯一、最寄りの駅からキャンパスまでバスを利用する総情生。「バスが遅れたあ〜」（「バスに乗り遅れた」ではない!!!）という経験をした人は少なくないと思います。バスの弱点は交通渋滞。道路事情は予測不能。普段でもそうですが、試験の時は特に、理想的なスケジュールより1本ないし2本早いバスに乗るよう心掛けてください。

（西田晃一准教授）

社会学部／社会学研究科

関関同立社会学系学部の交流開始

関関同立の社会学系学部が相互に連携しながら切磋琢磨していくため、2016年度より、交流を開始します。本学と関西学院大学、同志社大学の社会学部および立命館大学の産業社会学部の4者で、学部長の懇談会、学部執行部による教学体制やカリキュラム改革についての情報交換会、学生のゼミ大会や単位互換制度など、さまざまな企画を検討中です。今年度は関西学院大学が幹事校ですが、社会学部が創立50周年を迎える2017年度は、本学が幹事校になる予定です。これからの活動にご期待ください。（副学部長 川崎友嗣教授）

社会安全学部／社会安全研究科

学部の英語名称を変更しました

社会安全学部は4月1日から英語名称を「Faculty of Safety Science」から「Faculty of Societal Safety Sciences」に変更しました。社会安全学部では、安全・安心に関わる問題に対し、法学、政治学、経済学、経営学、心理学、社会学、理学、情報学、工学、社会医学などの既存の学問分野を融合し、安全の知の集積・体系化に取り組んでいます。そこで、安全工学のイメージが強いSafety Scienceではなく、我々が挑戦している取り組みを正確に表現するため、理系・文系問わず社会全般に関することを意味するSocietalを用い、複数の分野が融合するという意味でScienceを複数形としました。（河野和宏准教授）

専門職大学院トピックス

臨床心理専門職大学院

心理臨床で汗をかく

皆さん、新年度の大学生活にはだいぶ慣れましたでしょうか。昨年度、臨床心理専門職大学院では、30人の者が門出を迎えました。この4月からのまだまだ不慣れな心理臨床のフィールドで、大きな責任を感じつつ、何とか貢献しようと、自分を奮い立たせながら汗をかいている姿が目につかびます。臨床の門をくぐられた本専攻の皆さんも、1年先、2年先に思いをさせながら、先輩に続く意気込みで大いに励んでいきましょう。心のこもった挨拶から始まる心理臨床のイロハが板につくように今のうちから大いに汗をかくことです。われわれ、教員一同は、惜しみなくサポートをしていく所存です。一緒に頑張りましょう。

（副専攻長 岡田弘司教授）

併設校トピックス

関西大学中等部・高等部

関関戦、甲子園に全員集合!

中等部・高等部の恒例となった関関戦観戦・応援行事。5月14日、強い日差しが照りつける中、愛校心の育成を目的に、全校生徒約800人がスティックバルーンを両手に、選手以上にたくさんの汗をかきながら、一丸となって熱い声援を送りました。中等部、高等部を卒業し、毎年大学応援団員に入部し、面前で躍動する先輩たちと生徒の願いが選手に伝わり、試合は4対0で勝利。将来、大学生になったときの自分の姿を思い描きながら、関西大学の一員であることを体感した1日でした。（中等部教頭 櫻井謙）



Attention 大学からの重要なお知らせ

「到達度の確認」「定期試験（筆記試験）」の注意事項・受験心得

初めて試験を受ける1年次生必見!

1 学生証は必需品!

学生証がない場合は、試験を受験できません。
○紛失した場合：再発行の手続きを。
教務センター、または各キャンパス事務室にて。
○試験当日に忘れた場合：「受験許可証」の発行を。
教務センター・各学舎授業支援ステーションまたは各キャンパス事務室にて。

2 遅刻は厳禁!

授業も試験も遅刻は厳禁。受験できない場合もあります。また、公通機関の遅延など、不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。

3 試験前の確認!

通常授業と教室が異なったり、同じ科目でも学籍番号によって、教室が分かれている場合があります。
○学籍番号・氏名を記入するため、ボールペンは必須です。（ただし消せるボールペンは使用不可）
○携帯電話・スマートフォン、ウェアラブルデバイス等は時計として使用できません。

4 不正行為には厳正に対処

不正行為をした場合は、春学期試験ですでに受験した科目は全て無効になり、残りの科目も一切受験できません。また、答案の持ち帰り、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為と見なされます。

5 病気など正当な理由で受験できない場合は…

医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」・「到達度の確認に相当する学力確認」を受けることができます。（受験料1,000円）
教務センターまたは各キャンパス事務室で手続きしてください。

6 成績発表の日時・確認方法

インフォメーションシステムで発表します。詳細は「試験システム」等で確認してください。

関大トピックス

体育会サッカー部が関西学生サッカー選手権大会で優勝

5月8日から6月5日にかけて行われた第45回関西学生サッカー選手権大会において、体育会サッカー部が3年ぶり8回目の優勝を果たしました。

6月5日大阪府ヤンマースタジアム長居にて開催された決勝戦。FW加賀山泰毅さん(人2)の2得点の同点で迎えた試合終了3分前、FW竹下玲王さん(社3)の決勝ゴールにより合計3得点となり、3対2で大阪体育大学に勝利しました。この結果、サッカー部は、8月6日(土)から長居公園内の各スタジアムを中心に行われる第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに、関西第1代表として出場し2005年シーズン以来となる同大会優勝を目指します。



留学カウンセラー制度を導入

2016年4月から国際部では、海外留学やインターンシップ・ボランティアなどに興味がある学生に対し、「留学カウンセラー」や「学生留学アドバイザー」による留学相談を行っています。留学カウンセラーとは、留学カウンセリングの専門家が留学の情報やノウハウを提供し、留学実現に向けての支援や、キャリア設計のために的確なアドバイスをを行います。また、学生留学アドバイザーによる留学経験に基づく相談や、各種イベントも実施しています。本学学生は、どなたでも利用できますので、興味がある学生は、本学留学情報サイト「SANKUS」をご覧ください。



第39回総合関関戦を開催

6月17から19日の3日間、関西大学を会場に、学生のスポーツ振興と関西大学・関西学院大学の親睦を深めることを目的とした、39回総合関関戦が行われました。今年のスローガンは「真志」。全員で試合に真摯に向き合い、勝利を志すという意味が込められています。通算成績は16勝21敗(第30回は中止)と負けを喫しており、必勝を期して挑んだ関西大学。前哨戦では10年ぶりに8勝7敗で勝ち越し、最終日の最終競技まで総合優勝の行方が分からない近年稀に見る大接戦となりましたが、あと一步、各体育会クラブの健闘も届かず、総合成績15勝17敗で今年も勝利をつかむことはできませんでした。



写真提供: 関大スポーツ編集局

関大人 四方山話 ◆「事務職員・今昔」

学校法人関西大学理事長 池内啓三



事務職員が「事務屋さん」と呼ばれていた昭和40年(今から51年前)に事務職員として採用された。当時、計算は「そろばん」、公文書は縦書きの「和文タイプ」、ときには「毛筆」であった。試験問題は「ガリ版刷りの謄写印刷」であった。昭和45年頃から「湿式コピー」や「電子計算機」が現れ、いわゆる機械化が進み出した。その頃就職課に在籍していた小生は、企業から送られてくる求人情報をせっせと書き取り、「求人票」を作成して印刷し、掲示板に貼り出す。それを見た学生が応募してくると選考し、応募書類を企業に宛て郵送する。来る日も来る日も、これらの単純作業を黙々と繰り返していた記憶がある。

時代が変わり、本法人が本年度事務職員の募集要項に記載した求める人材とは、①誠実で信頼のおける人、②社会の役に立つことを生きがいに行える人、③人に優しく気配りしながら、しっかりとしたコミュニケー

ションをとれる人、④多角的視点に基づく企画力を持ち、バランス感覚に優れた人、⑤法律知識、語学力、IT技術等の専門能力を創造的に活用できる人、である。①～③は昔も今も変わらないが、④⑤は今や必須であり、その上かなり高いレベルが求められる。

今日の私学運営の要諦は「教職協働にあり」といわれている。事務職員が教学支援や研究支援あるいは学校会計や関係法令をはじめとする専門知識や技能を身に付けることによって、教育職員や学生諸君の信頼を得、学校運営のプロとして調整力やコーディネート力を発揮しなければならない。「自分達が大学を支えるのだ」という自覚と誇りを持つことが何よりも重要であると思う。このように見てくると、今、そしてこれからの「大学事務職員」という職業は、大変発展性のある、やりがいのある職種であると思うのだが、読者の皆さまはどうお考えであろうか。

編集後記

特集の「関大生と日本の祭り」の取材のため、祭りに参加したことがある学生を求めて東北と沖縄出身の約160人に連絡をとりました。忙しい学生も多く、直接話ができただけはその半数にも満たなかったかと思います。しかし電話に出てくれた学生の中には、取材の趣旨を説明すると友達を紹介してくれた学生もいました。そのおかげで今回の特集は成り立っています。取材を受けてくれた学生をはじめ、協力してくれた皆さん!本当にありがとうございました。(広報課 糟谷美雪)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日: 2016年7月1日(年9回発行)

発行: 関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話: 06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

住吉祭神輿渡御にてみこしを担ぐ人間健康学部学生の皆さん

※表紙写真を募集しています。

関大生の皆さんから素敵な写真を募集しています。詳しくはインフォメーションシステムのお知らせもしくは関西大学公式Instagramをご覧ください。